



문해

にっかんしき じ がくしゅうしゃきょうどう せんげん

日韓識字學習者共同宣言

한일문해학습자공동선언

Joint Declaration of Korea-Japan Literacy Learners



Literacy

はじめに

識字など基礎教育の充実のため、研究者、実践者、学習者等が連携して取組をすすめる基礎教育保障学会が、2016年に設立され、2017年からは、トヨタ財団国際助成プログラム^{し えん う}の支援を受けて、韓国^{かんこく}の全国文解・基礎教育協議会^{ぜんこくむん へ き そきょういくきょうぎかい}とともに、日韓識字教育^{にっかんしきじきょういく}の交流を進め、実践と研究^{じっせん けんきゅう}の発展に努めてきました。今日^{こんにち}、日韓両国とも経済的に発展した国^{けいざいてき はってん くに}でありながら、義務教育^{ぎむきょういく}を十分受けることのできなかった人^{じゅうぶん う ひと}が存在し、その学習機会^{そんざい がくしゅう きかい}の確保が切実な課題となっています。

識字^{しきじ}を前提として運営される社会^{ぜんてい うんえい}では、識字状態^{しきじじょうたい}にない人々^{ひとびと}は不利益^{ふりえき}を被るだけでなく、生存そのものも危うくなりかねません。

識字を含むおとなの学び^{しきじ ふく まな}についての日韓交流^{にっかんこうりゅう}は、1990年の国際識字年^{こくさいしきじねん}のころから展開されてきました。識字問題^{しきじもんだい}の背景^{はい}には、戦争^{せんそう}、差別^{さべつ}、貧困^{ひんこん}、病気^{びょうき}、植民地化^{しょくみんちか}など様々な要因^{さまざまよういん}があり、近年^{きんねん}は海外各地^{かいがい}の出身の居住者^{しゅっしん きょじゅうしや}も増えて、母語^{ふ ぼ}とともに居住する地の言語学習^{きょじゅう ち げんご}の保障も大きな課題となっています。

これらは、基本的人権^{きほんてきじんけん}にかかわることであり、国や地方公共団体^{くに ち ほうこうきょうだんたい}の責任^{せきにん}で社会的に解決^{しゃかいてき}を図らなければなりません。これまでにも、関係者^{かんけいしや}の熱心な取組^{ねっしん とりくみ}によって、韓国^{かんこく}では2007年^{ねん}以来平生教育法^{いらいへいせいきょういくほう}（生涯教育法^{しょうがいきょういくほう}）で文解教育^{むん へ きょういく}が法的に位^{ほうてき い}

ち 置づけられ、日本でも 2016年制定の教育機会確保法によ
て、夜間 中 学校や識字・日本語 教室など、義務教育の段階
における普通教育に相当する教育機会の拡 充 が 促 され
ています。

しかし、まだまだ教育機会の提 供 は不 十 分で、学 習 でき
る人が限られています。学 習 を必要としながら、身近に学 ぶ場
がない人、あってもそのことがわからない 状 態に置かれている
人、声を上げることができないままになっている人が少なくあり
ません。それぞれの国における実践を参考にしながら、識字 教
育のネットワークを広げ、それを支える施策を推進することが
必要です。その際、学 習 者の体験に根差した活動が 中 心と
ならなければなりません。識字教育の意義は、文字の読み書
きだけでなく、それを通じて自己の主体性を発揮し、連帯して
社会の創造にあたるところにあります。教育の機会を持つこと
が 難 しかった人生を振り返り、それにつながる社会の歴史を
学 ぶことによって、その糸口を得ることができます。そのため、識
字教育では、学 習 者相互、学 習 者と支援者相互の学 びあ
い を 重 視しています。

今回のプロジェクトは、このような 教育を促進するために企
画され、会議を重ねて日韓それぞれの国の制度、政策、実践な
どについて 情 報を交換し、共 通点と差異点を明らかにして、

まな と てん かいぜん てん ついきゅう じっち たし
学び取るべき点、改善すべき点を追究してきました。実地に確
かめるために、^{りょうこく}両国の^{しき}識字^{ききょういく}教育の現場を訪れて、^{がくしゅうしゃ}学習者・
支援者の^{し えんしゃ}交流^{こうりゅう}を進めながら、^き基礎^{ききょういく}教育の現状を調べ、その
あり方を検討してきました。そしてワークショップやシンポジウム
などによって、^{せい か}成果を^{しゅうやく}集約し、^{がくしゅうしゃ}学習者の^{ねが}願いを^{きやうどうせんげん}共同宣言に
まとめ上げました。そこには^あ学習者の^{がくしゅうしゃ}率直な^{そつちよく}思いが込められ
ています。

わたし きやうどうせんげん ふ ききゅう はか い
私たちは、この共同宣言の普及を図り、それを活かした
^{き そ ききょういく}基礎^{かくじゅう}教育の^き拡充^{ひとびと}を^{ききょういく}期^{けんり}します。人々の^{ほ しょう}教育への^{けんり}権利の^{ほ しょう}保障
は^{くに}国や^{ち ほうこうきやうだんたい}地方公団体の^{せき む}責務であり、^{がくしゅうしゃ}学習者の^{ようぼう}要望に^{こた}応える
施策を展開しなければなりません。^{し さく}企業等も^{てんかい}その^{き きやうなど}社会的責任^{しゃかいてきせきにん}
の一環として、^{いっかん}学習^{がくしゅう}を必要とする人々の^{ひと}教育参加^{きやういくさんか}を^{えんじよ}援助する
ことが求められます。すべての人のための、すべての人による
^{ききょういく}教育^{じつげん}を実現することが課題です。そのためには、これまで^{けんり}権利
の^{ほ しょう}保障が^{ふ じゅうぶん}不十分であった人々に^{ひとびと}焦点を^{しょうてん}当てた^あ教育の^{ききょういく}拡
^{じゅう}充^{ひつよう}が必要不可欠です。^{ふ か けつ}多くの^{おお}人々の^{ひとびと}協働による^{ききょうどう}基礎^{き そ ききょういく}教育
保障の^{ほ しょう}充実に^{じゅうじつ}訴^{うった}えます。

うえすぎたかみち
上杉孝實

き そ ききょういく ほ しょうがつかいかいちょう
(基礎教育保障学会会長)

もくじ

はじめに.....	i- iii
-----------	--------

にっかんしき じ がくしゅうしゃきょうどうせんげん 日韓識字学習者共同宣言.....	1
にほんご 日本語.....	2
かんこくご 韓国語.....	11
えいご 英語.....	19

にっかんしき じ がくしゅうしゃきょうどうせんげん たんじょう 日韓識字学習者共同宣言の誕生.....	27
--	----

さんこう 参考ウェブサイト.....	34
-----------------------	----

にっかんしき じ がくしゅうしゃきょうどうせんげん
日韓識字學習者共同宣言

한일문해학습자공동선언

Joint Declaration of Korea-Japan Literacy Learners



につかんしき じ がくしゅうしゃきょうどうせんげん 日韓識字学習者共同宣言

わたしたち日本と韓国の識字学習者は、2019年3月27～29
日に、日本の福岡に集まりました。福岡は、日本の識字運動が
始まったところです。わたしたちは、3日間をかけて、生い立ちを
語り合い、識字で学ぶようになったきっかけを交流し、学ぶよ
うになってどんな変化があったかを出し合いました。やりとりは
どんどん深まりました。初めて会った人とは思えませんでした。
集まった人数は限られていますが、まちがいなく、わたしたちの
声はたくさんの仲間たちの声でもあります。この宣言は、その
交流から生まれました。一人ひとりの発言や思いをつないで
できたものです。

わたしたちは、いろいろな事情で子どものころに学ぶことが
できませんでした。小さなころに、親がいなくなりました。それで、
幼い妹や弟の面倒をみなねばならなくなりました。小さ
な子どもを連れて学校には行けません。小さい頃から、しごとを
して、買い物をして、食事をつくって、家をきりもりすることがわ
たしたちの毎日でした。「女に学問はいらない」と言われまし
た。学校に通う友だちがうらやましくてなりませんでした。その
日その日のお金に頼るしかありませんでした。履歴書に「卒業」
と書けません。しごとをする自信は人一倍あっても、読み書きで

きないために^{からだ}身体^{つか}を使うしごとばかりでした。それでも昔^{むかし}はまだ、読^よみ書^かきできなくても暮^くらせました。いまでは読^よみ書^かき抜^ぬきにしごとありません。職^{しょく}場^ばで文^も字^じと出^で合^あうときが、その仕^し事^{ごと}からわたしたちが別^{わか}れるときでした。つらさを考^{かんが}える時^じ間^{かん}さえありませんでした。

障^{しょう}がいによってさらにきびしい暮^くらしを強^しいられた人^{ひと}もいます。戦^{せん}火^かのなかをかいぐり、生^いき延^のびることに精^{せい}一^い杯^{ぱい}だったという人^{ひと}もいます。貧^{まず}しい中^{なか}で「いいしごとがあるよ」とだまされて売^うと飛^{ひと}ばされた人^{ひと}もいます。生^うまれた場^ば所^{しょ}を理^り由^{ゆう}に差^さ別^{べつ}され、はねつけられて生^いきてきた人^{ひと}もいます。未^み来^{らい}が見^みえず、自^{みづか}ら命^{いのち}を絶^たとうとした人^{ひと}もいます。

男^{だんせい}性^{せい}ももちろんいます。同^{おな}じように、おさない頃^{ころ}から貧^{まず}しさや差^さ別^{べつ}のなかで生^いきてきました。でも、男^{だんせい}性^{せい}は、女^{じょせい}性^{せい}以^い上^{じょう}に「読^よみ書^かきができません」とは言^いいにくいのかもしれません。みえをはって、つよがって生^いきてきました。

そんなわたしたちが、読^よみ書^かきを学^{まな}ぶようになりました。きっかけがあったからです。子^こどもが「標^{ひょう}準^{じゅん}語^ご」しか話^{はな}せなくなっ、わたしの話^{はな}すことばが通^{つう}じなくなり、親^{おや}子^このつなかりが切^きれていきました。子^こ育^{そだ}ても終^おわり、自^じ分^{ぶん}の時^じ間^{かん}が少^{すこ}しでもとれるようになりました。そんなときに読^よみ書^かきを学^{まな}べる場^ば所^{しょ}を子^こどもや孫^{まご}、友^{とも}だちが教^{おし}えてくれました。

読み書きができないことはぜったいに知られたくありませんでした。自分への手紙も、だれにも「読んで教えてほしい」とは言えませんでした。知られたくないばかりに、遠くの教室を選んで、1時間も2時間もかけて自転車で通いました。昔からの友だちに教室で出会い、「あああなたも読み書きできなかったのか」と言い合いました。

教室では、同じように読み書きできない仲間がいました。読み書きできないなんて自分1人だと思っていました。ちがっていたのです。教室に行けば、いつもみんなが迎えてくれます。関わっている人たちは、信頼できる人たちでした。

読み書きを学ぶようになって、人生は大きく変わりました。わたしにとって止まっていた時間が動き始めました。人生が始まりました。安心して何でも話せる友だちができました。自分のことを大切にしてもらっていると思えます。紙の上の黒いシミが文字でした。同居している息子の妻が冷蔵庫に貼ってくれていたメッセージがありました。友だちに読んでもらって「お母さんありがとうございます」だとわかりました。4年たって返事が書けました。心の傷がゆっくりと癒えてきました。わからない文字に出合っても教室でたずねることができます。怖かった文字が、怖くなくなってきました。仕事場には、ノートを置いて書くようになりました。いつも下を向いて歩いていて「お金が落ちているのを探してい

るのかい」と言われていたわたしが、正面^{しょうめん む}を向いてにこにここと
笑顔^{え がお ある}で歩くようになりました。新しいこと^{あたらし}に挑戦^{ちようせん}する気持ち^{き も}が
わいてきます。文章^{ぶんしょう}を読む^よことで、世^よの中のことがわかるよう
になりました。生^おい立ち^たを文章^{ぶんしょう}に綴^{つづ}ることで、どうしてわたしの
人生^{じんせい}がこうだったのか、わかるようになりました。傷^{きず}が癒^いえて、前^{まえ}
よりもずっと強^{つよ}くなりました。

子どもたちも、背中^{せ なか}を見て育^みてくれました。識字^{しきじ}の場^ばに子ども^こ
も連れて通^ついました。子どもはわたしたちが勉強^{べんきょう}している
姿^{すがた}を見て育^みちました。「勉強^{べんきょう}しなさい」と言^いわなくてもこつこつ
と学^{まな}ぶようになりました。子どもたちが、自分^この夢^{じ ぶん}を見^みつけて、
広^{ひろ}い世界^{せ かい}に飛^とび立^たっていきました。もしもわたしが中^{ちゆう}途^と半^{はん}端^ぱに
学校^{がっこう}に行^いっていたら、識字^{しきじ}に通^{かよ}っていなかったら、成績^{せいせき}だけで
子どもを見^みて、追^おい立^たてるように子どもを育^こてていたかもしれま
せん。

読^よみ書^かきを学^{まな}ぶ場^ばにまだ来^きていない仲間^{なか ま}たちがいます。「ま
た今^{こん}度^ど行^いくからね」と言^いってちっとも来^こない人^{ひと}がいます。わたし
もそう言^いっていたよ。でも、来^くるようになって「ああもっと早^{はや}く来^き
ていればよかったなあ」といまは思^{おも}います。「困^{こま}っていないから」と
言^いう人^{ひと}もいます。でも、ほんとうはあなたも苦^{くる}しんでいるんじゃない
のかな。「いまさら学^{まな}んでもねえ」という人^{ひと}もいます。もしも死^し
んだ後^{あと}に天^{てん}国^{ごく}と地^じ獄^{ごく}があつて、文^も字^じの読^よみ書^かきをできないまま

でいたら、^{みち まちが}道を間違ってしまうかもしれないよ。でもねえ、みんな、
^{かね}ほんとはお金がなくて、^{しごと}仕事や^{こそだ}子育てで^{いそが}忙しいんだよ。

そういう^{ひと}人たちが^こ来られないのも、^{きょうしつ}教室が^た足りないからです。
^{かね}お金がかかるからです。^{かか}関わっている^{ひと}人たちもボランティアで
^{しゃきん}謝金さえ^で出ないことも^{おお}多いからです。^{かいだん}階段だけでエレベーター
もない。^{た もくてき}多目的トイレもない。^{しょう}障がいのある^{ひと}人が^き来ても^{し せつ}施設で
がっかりしてしまいます。^{まな}学びたくても^こ来られないのは、^{まな}学ぶ
^{ばしょ}場所が^し知られていないからです。^{まな}わたしたちの^{すがた}学んでいる^姿姿
を、もっともっとテレビや^{しんぶん}新聞などで^{しょうかい}紹介してほしい。「あなた
もおいでよ」と伝えたい。^{つた}政府には、^{せいふ}無償で^{むしょう}安心して^{あんしん}学べる
^{まな}場所を^{ばしょ}保障する^{ほしょう}責任が^{せきにん}あります。

わたしたちにとって、^{しきじ}識字とは、^よ読み書きを^{まな}学ぶだけではあり
ません。^{もじ}文字を通して^{とお}人生を^{じんせい}学ぶ^{まな}ことです。^{せいかつ}生活する^{ちから}力は^{ははおや}母親
がつけてくれましたが、^い生きる^{ちから}力は^{しきじ}識字で^み身につけました。
^{しきじ}識字のおかげで^よ世の中が^{なか}ハッキリと^み見えてきました。だから、
^{しきじ}識字は^{しきじ}わたしにとって^{もじ}めがねのようなものです。^{しきじ}識字とは、^{もじ}文字
を^{まな}学び、^{じぶん}自分を^{ひょうげん}表現する^ば場です。^{じんせい}人生の^{よろこ}喜びであり、^い生きが
いであり、^{しあわ}幸せです。^{こころ}心の^い居場所です。^{しきじ}識字は、^{ゆめ}小さな夢をど
んどん^{おお}大きく^{じんせい}してくれます。^{ひら}人生のとびらを^{ひら}開いてくれるもので
す。^{まな}学ぶようになって、^{あきらめ}あきらめないようになりました。わたした

ちにとって^{まな}学ぶことは^い生きることです。みんなで^{ささ}支えあい^{まな}学びあ
うことで、^{へい}平和で^く暮らしやすい^{しゃかい}社会が^{きず}築けます。

いまだから^いこう言えます。

^こ子ども^よのころに^か読み書きを^{まな}学べなかったからこそ、
^{しあわ}いまの幸^せがある。

^{しゃかい}社会や^{せい ふ}政府への^{ようぼう}要望

^{こうりゅう}交 流^へを経て、わたしたちは、^{にっかん}日韓の^{りょうこく}両 国^{きょうつう}で、^{つぎ}共 通に次の
^{しゃかい}ようなことがらを^{せい ふ}社会や^{もと}政府に求めます。

1.^{ぜんこくてき}全国的な^{ちょう さ}調 査^よをして、いまでも^か読み書きで^{くや}悔しい^{おも}思いをしてい
^{ひと}る人がいることを^{たし}確かめてください。^よ読み書きで^{くや}悔しい^{おも}思い
をしている^{ひと}人がいることを^しもっと知ってください。

2.^こ子どもたちがみんな、^{あんしん}安心して^{まな}学べる^{がっこう}学校をつくってください。
わたしたちの^{なか ま}仲間^こで子ども^{がっこう}のころに^い学校に行ったことのある
^{ひと}人は、^{がっこう}学校で、ときには^{せんせい}先生から^{くや}悔しい^{おも}思いをさせられました。
^{おお}多くの^{なか ま}仲間は^{かね}お金がなくて^{がっこう}学校に行けませんでした。いまでも
^{がっこう}学校に行けない^い子どもたちがいます。もうそんな^こ子どもが^で出
ないようにしてください。

3.さまざまな事情で子ども^このところに教育^{きょういく}を受けられなかった人^{ひと}が、おとなになってからでも安心^{あんしん}してまなべるよう、識字^{しきじ}や基礎教育^{きそきょういく}の学習^{がくしゅう}を支援^{しえん}する制度^{せいど}と手だてをつくってください。しっかりした法律^{ほうりつ}をつくり、予算^{よさん}をきちんと準備^{じゅんび}するなど、政府^{せいふ}や社会^{しゃかい}が責任^{せきにん}をもって保障^{ほしょう}してください。

4. おとなになってから学ぶ^{まな}には、時間^{じかん}がかかります。追い立てられるようにして学んだ^{まな}のでは、学ぶ^{まな}ことが重荷^{おもに}になりかねません。安心^{あんしん}して長い年月^{ながねんげつ}をかけてじっくり学べる^{まな}ような制度^{せいど}にしてください。教室^{きょうしつ}の中^{なか}だけではなく、他の教室^{ほかきょうしつ}と交流^{こうりゅう}したり、外^{そと}に出^でかけていろいろな経験^{けいけん}を重ね^{かさ}ながら学んだ^{まな}りすることも大切^{たいせつ}です。

5. 安心^{あんしん}して学ぶ^{まな}には、自分^{じぶん}たちのための教室^{きょうしつ}が身近^{みぢか}に必要^{ひつよう}です。近く^{ちか}になれば、声^{こえ}も上げられません。車^{くるま}イスを使う^{つか}人がまなぶ^{ひつよう}には、エレベーターなどが必要^{じゅぎょうりよう}です。授業料^{こうつう}や交通費^ひなどお金^{かね}がいらないようにしてください。全国^{ぜんこく}のどこに住ん^すでいても、いつでも学べる^{まな}よう、おとなのための識字教室^{しきじきょうしつ}や学校^{がっこう}をたくさんつくってください。

6. わたしたちを応援^{おうえん}している人^{ひと}たちの多くは、わたしたちの話^{はなし}を聴^きき、一人^{ひとり}ひとりに応^{おう}じた教材^{きょうざい}をつくり、わたしたちがつながる^{てだす}手助け^{ねっしん}をするなど、とても熱心^{かか}に関わってくれています。

けれども、その多くは無給です。わたしたちの思いや背景を
理解する支援者がもっと出てきてほしい。だから、関わりたい
人がいっそう関わりやすくなるよう、給与や研修や教材づ
くりなどの条件を整えてください。

7. 日本と韓国の政府が協力して「識字・基礎教育月間」を
決め、活動を進めたり交流を広げたりしてください。識字の
取組は不十分ですし、識字問題を知らない人に問題を知ら
せるべきです。また、今回の交流では、初めて会った人なの
に、10年来の友だちのように心を開いて話げできました。
わたしたち参加者はとても元気になりました。こういう交流
をぜひふやしてください。

8. 学びたいと思っている人にこの共同宣言を届けてください。
読んで伝えてください。絵に描いてください。わたしたちの
人生に関わるアニメやドラマをつかって放送し、多くの人に知
らせてください。この宣言だけでなく、世界で学んでいる識字
学習者の声を、ぜひ多くの人の心に届けてください。

2019.9.27

日韓識字教育強化のための国際シンポジウム

参加者一同

【共同宣言の背景】

識字をめぐる日韓の交流は、1990年から始まった。国際識字年をきっかけに日韓の識字関係者が出会い、そこから研究の交流やお互いの教室訪問を重ねてきたのである。1990年代の識字学習者は、日韓ともに第二次世界大戦前後に学齢期を迎えた人たちが中心だった。韓国では、日本による植民地時代を経験した人たちである。韓国における識字問題は、日本による植民地化と不可分である。交流では、この歴史をどのように踏まえていくかが大きな課題であり続けた。2017年に始まった現在の交流にあっても、このような視点は根底に据えられている。

第二次世界大戦後、両国の識字問題は、朝鮮戦争、高度経済成長、独裁政権、識字率100%神話、さまざまな差別、貧困や格差問題、受験競争、外国人受け入れ問題、識字関連法制定運動など、両国に重なる要因とそれぞれに独自の要因が絡んで展開してきた。交流を通してお互いの課題が明るみになりつつある。

共同宣言づくりのワークショップでは、日韓の学習者が交流を深め、体験や思いを重ねあった。日韓の学習者の思いによってこの宣言は生まれたのである。この共同宣言が、日韓の識字交流にとって新たな時代を切り拓くものになると確信している。

日韓識字学習者による共同宣言づくりワークショップ
実行委員会

한일문해학습자공동선언

우리 한국과 일본의 문해학습자는 2019 년 3 월 27~29 일에 일본 후쿠오카에 모였습니다. 후쿠오카는 일본의 문해운동이 시작된 곳입니다. 우리들은 3 일간에 걸쳐 서로 살아온 이야기를 하며 문해교실에 오게 된 계기에 대해 교류하고 교실에서 배우고 나서 어떠한 변화가 있었는지를 나누었습니다. 서로간의 이야기는 점점 더 심화되었습니다. 처음 만난 사람들이라고는 생각할 수 없었습니다. 모인 사람들의 숫자는 한정되어 있었지만 우리들의 목소리는 많은 문해학습자들의 목소리이기도 합니다. 이 선언은 그러한 교류에서부터 생겨났습니다. 한사람 한사람의 목소리와 마음을 이어 만든 것입니다.

우리들은 여러가지 사정으로 어렸을 때 배울 수 없었습니다. 어렸을 때 부모님이 계시지 않았습니니다. 그래서 어린 동생들을 보살피지 않으면 안 되었습니다. 어린 아이들을 데리고 학교에 갈 수는 없었습니다. 어렸을 때부터 매일 일을 하고 장을 보고 음식을 만들고 가정을 꾸려나가야 했습니다. 「여자가 배워서 뭐하냐」라는 말도 들었습니다. 학교에 다니는 친구들이 부러웠습니다. 그날 그날 들어오는 돈에 의지할 수 밖에 없었습니다. 이력서에「졸업」이라고 쓸 수 없었습니다. 일을 하는데는 다른 사람보다 자신이 있었지만 읽고 쓸 수 없었기 때문에 몸을 쓰는 일밖에 할 수 없었습니다. 그래도 옛날에는 읽을 수 없어도 쓸 수 없어도 살 수 있었습니다. 지금은 글을 읽지 못 하면 할 수 있는 일이 없습니다. 직장에서 글을 써야

하는 일을 해야 할 때가 그 일을 그만두는 때였습니다. 힘들다고
생각할 시간조차도 없었습니다.

장애때문에 더 힘든 삶을 강요당해 온 사람도 있습니다. 전쟁의
포화를 견뎌 살아남는 것만으로도 급급했던 사람도 있습니다.
가난 속에서 「좋은 일자리가 있다」는 말에 속아 나를 팔아넘긴
사람도 있었습니다. 태어난 지역을 이유로 차별받아 그 차별과
싸우며 살아온 사람도 있습니다. 희망이 보이지 않아 스스로
목숨을 끊으려고 한 사람도 있습니다.

남성들도 물론 있습니다. 마찬가지로 어렸을 때부터 빈곤과
차별 속에서 살아야 했습니다. 하지만 남성은 여성 이상으로
「글을 모릅니다」라고 말하기 어려울지 모릅니다. 허세를 부리며
강한 척 살아왔습니다.

그런 우리들이 글을 배울 수 있게 되었습니다. 계기가 있었기
때문입니다. 아이들이 「표준어」 밖에 할 수 없어 내가 하는 말이
통하지 않아서 부모자식간의 관계도 끊어져 버렸습니다. 아이들이
다 자라고 나만의 시간이 조금씩 생기게 되었습니다. 그 때
자식들이, 손주들이, 친구들이 글을 배울 수 있는 곳을 가르쳐
주었습니다.

글을 모른다는 것은 절대로 다른 사람들에게 알리고 싶지
않았습니다. 나한테 온 편지도 「읽고 가르쳐 달라」고 말하지 못
했습니다. 다른 사람들한테 들키고 싶지 않아서 먼 곳의 교실을
골라 1시간이고 2시간이고 열심히 자전거를 타고 다녔습니다.
오래 알고 지내던 친구와 문해교실에서 만나서 「너도 글을
몰랐구나」라고 서로 이야기하기도 했습니다.

교실에서는 마찬가지로 글을 모르는 친구들이 있었습니다. 글을 모르는 것은 나 혼자라고 생각했습니다. 하지만 그렇지 않았습니다. 교실에 가면 언제나 모두가 반겨줍니다. 교실에 있는 사람들은 신뢰할 수 있는 분들이었습니다.

글을 배우고 나서 인생이 크게 바뀌었습니다. 나한테 멈추어 있던 시간이 움직이기 시작했습니다. 인생이 시작되었습니다. 안심하고 뭐든 말할 수 있는 친구가 생겼습니다. 나를 소중히 생각해 주고 있다는 것을 느낍니다. 종이 위에 검은 얼룩은 글씨였습니다. 같이 사는 며느리가 냉장고에 붙여둔 메모가 있었습니다. 친구한테 물어달라고 해서 「어머님 감사합니다」라는 걸 알았습니다. 4 년이 지나 답장을 썼습니다. 마음의 상처가 조금씩 치유되고 있습니다. 모르는 글자가 나와도 교실에서 물어볼 수 있습니다. 무서웠던 글이 무섭지 않게 되었습니다. 일하는 곳에서는 공책을 두고 글을 쓰게 되었습니다. 언제나 아래를 보고 걸어서 「돈 떨어져 있는지 찾고 있니?」라는 말을 들었던 내가 앞을 보고 미소지으면 걸을 수 있게 되었습니다. 새로운 것에 도전하고 싶은 마음이 생겼습니다. 글을 읽음으로써 세상에서 일어나는 일을 알 수 있게 되었습니다. 지금까지 살아온 날들을 적음으로써 왜 내 인생이 이렇게 되었는지 알게 되었습니다. 상처가 치유되고 전보다 조금씩 강해졌습니다.

아이들도 열심히 살아가려고 일하는 모습을 보며 자라주었습니다. 문해교실에 아이들을 데리고 다니기도 했습니다. 아이들은 우리들이 공부하고 있는 모습을 보면서 자랐습니다. 「공부해」라고 말하지 않아도 아이들은 열심히 공부해

주었습니다. 아이들이 자신의 꿈을 발견하고 보다 넓은 세계를 향해 나아갔습니다. 만일 내가 대충 교실에 다녔다면, 다니지 않았다면 성적만으로 아이를 보고 아이를 내몰면서 길렀을지 모르겠습니다.

글을 배울 수 있는 곳에 아직 오지 않는 친구들이 있습니다. 「다음번에 갈게」라고 하고 오지 않는 사람도 있습니다. 나도 그렇게 말했지만 와 보고 나서 「빨리 올 걸 손해봤네」라고 지금은 생각합니다.「지금 불편하지 않기 때문에」라고 하는 사람도 있습니다. 하지만 실은 힘들지 않을까요?「이 나이에 배워서 뭐 해」라고 하는 사람도 있습니다. 만일 죽은 후에 천국과 지옥이 있어서 글을 배우지 못 한 채로 간다면 길을 잘못 들 수도 있습니다. 그렇지만 실은 모두 돈이 없고 일과 양육에 바빠서겠지요.

그런 사람들이 올 수 없는 것도 교실이 부족하기 때문입니다. 돈이 들기 때문입니다. 교실의 선생님들도 자원봉사자로 강사료도 나오지 않는 곳도 많기 때문입니다. 계단만 있고 엘리베이터도 없고 다목적 화장실도 없어 장애가 있는 사람들이 와도 부족한 시설에 실망하고 맙니다. 배우고 싶어도 올 수 없는 것은 배울 수 있는 장소가 알려져 있지 않기 때문입니다. 우리들이 배우고 있는 모습을 보다 많이 텔레비전과 신문 등을 통해 소개해 주시길 바랍니다. 「함께 배우자」라고 전하고 싶습니다. 정부에서는 무상으로 안심하며 배울 수 있는 장소를 보장할 책임이 있습니다.

우리들에게 있어 문해란 읽기 쓰기를 배우는 것만을 말하는 것이 아닙니다. 글을 통해 인생을 배우는 것입니다. 생활하는 힘은 어머니가 가르쳐 주셨지만 살아가는 힘은 문해를 통해 몸에 익혔습니다. 문해 덕분에 세상이 명확히 보이기 시작했습니다. 그렇기 때문에 문해는 나에게 있어 안경과 같은 것입니다. 문해란 글을 배우고 자신을 표현하는 장입니다. 인생의 기쁨이고 삶의 보람이며 행복입니다. 마음 편히 있을 수 있는 곳입니다. 문해는 작은 꿈을 점점 크게 만들어 줍니다. 인생의 문을 열어주는 것입니다. 배움으로써 포기하지 않게 되었습니다. 우리들에게 있어 배우는 것은 살아가는 것입니다. 서로 지지해 주며 함께 배우는 것을 통해 평화롭고 살기 좋은 사회를 만들어 나갈 수 있습니다.

지금이야말로 이렇게 말할 수 있습니다.

어렸을 때 배우지 못 했기 때문에 지금의 행복이 있다.

사회와 국가에 대한 요망

교류를 통해 우리들은 한국과 일본의 양국에서 함께 다음과 같은 사항을 사회와 국가에 요구합니다.

1. **전국적인 조사**를 해서 지금도 문해때문에 서러운 경험을 하고 있는 사람이 있다는 것을 확인해 주세요. 문해 때문에 서러운 경험을 하고 있는 사람이 있다는 것을 더 알려주세요.

2. 아이들이 모두 **안심하고 배울 수 있는 학교**를 만들어 주세요.
우리들 중에 어렸을 때 학교에 갔었던 적이 있는 사람은 때로는 선생님 때문에 서러웠던 경험을 했습니다. 많은 친구들은 돈이 없어서 학교에 다닐 수 없었습니다. 지금도 학교에 가지 못 하는 아이들이 있습니다. 이제는 그런 아이들이 생기지 않게 해 주세요.
3. 여러가지 사정으로 어렸을 때 교육을 받지 못 했던 사람이 성인이 되어서도 **안심하고 배울 수 있도록 문해와 기초교육의 학습을 지원하는 제도와 방법**을 만들어 주세요. 탄탄한 법률을 만들고 예산을 준비하는 등, **정부와 사회가 책임을 가지고 보장해** 주세요.
4. 어른이 되어 배우는 데에는 시간이 걸립니다. 재촉하듯이 배운다면 학습이 큰 짐이 될 수 있습니다. **안심하고 오랜 시간을 들여 천천히 배울 수 있도록 제도를** 만들어 주세요. 교실 안에서 뿐만 아니라 다른 교실들과 교류하거나 교실 밖에서 다양한 경험을 쌓으며 배우는 것도 중요합니다.
5. **안심하고 배우기** 위해서는 자신들을 위한 교실이 근처에 있는 것이 필요합니다. 근처에 문해교실이 없다면 배우고 싶다는 마음을 표현할 수도 없습니다. 휠체어를 사용하는 사람이 배우기 위해서는 엘리베이터 등이 필요합니다. 수업료와 교통비 등이 들지 않게 해 주세요. **전국 어디에 살더라도 언제든지 배울 수 있도록 성인을 위한 문해교실과 학교를 많이** 만들어 주세요.

6. 우리들을 응원해 주고 있는 많은 사람들은 우리들의 이야기를 듣고 한사람 한사람에 맞는 교재를 만들고 우리들이 서로 연계할 수 있는 도움을 주는 등 열심히 활동해 주고 계십니다. 하지만 대부분 무급입니다. 우리들의 마음과 배경을 이해하는 지원자들이 보다 많이 나왔으면 좋겠습니다. 그렇기 때문에 **문해교실에서 활동하고 싶은 사람이 참여하기 쉽도록 급여와 연수, 교재만들기 등의 조건을 정비해 주세요.**
7. **한국과 일본의 정부가 협력해서 「문해 · 기초교육의 달」을 정해서 활동을 추진 하거나 교류를 넓힐 수 있도록 해 주세요.** 문해교육활동을 충분하지 않고 문해문제를 알지 못하는 사람들에게 알려야 합니다. 또 이번 교류에서는 처음 만났음에도 10 년간 알고 지낸 친구처럼 마음을 열고 말할 수 있었습니다. 우리 참가자들은 정말 힘을 얻었습니다. 이런 교류를 부디 많이 해 주세요.
8. **배우고 싶다고 생각하는 사람에게 이 공동선언을 전달해 주세요.** 읽어서 전해 주세요. 그림으로 그려주세요. 우리들의 인생에 관한 애니메이션과 드라마를 만들어 방송해서 많은 사람들에게 알려주세요. 이 선언 뿐만 아니라 **세계에서 배우고 있는 문해학습자의 목소리를 부디 많은 사람들에게 전해 주세요.**

2019. 9. 27

한일문해교육강화를 위한 국제심포지움 참가자 일동

【공동선언의 배경】

문해를 둘러싼 한일의 교류는 1990 년부터 시작되었다. 세계문해의 해를 계기로 한국과 일본의 문해관계자가 만나, 그로부터 연구교류와 문해교실 방문을 꾸준히 해 왔습니다. 1990 년대의 문해학습자는 한일 양국 모두 제 2 차 세계대전 전후에 학령기를 맞이한 사람들이 중심이었습니다. 한국에서는 일본에 의한 식민지시대를 경험한 사람들입니다. 한국의 문해문제는 일본에 의한 식민지 지배와 깊은 관계가 있습니다. 교류에서는 이러한 역사를 어떻게 자리매김할 것인가가 큰 과제였습니다. 2017 년에 시작된 이번 교류에 있어서도 이러한 시점은 교류의 근저에 있었습니다.

제2차 세계대전이후 양국의 문해문제는 6 · 25 전쟁, 고도경제성장, 독재정권, 문해율 100%신화, 다양한 차별문제, 빈곤과 양극화문제, 수험경쟁, 외국인 유입문제, 문해관련 법제정운동 등 한국과 일본에서 서로 중복되는 요인과 각각의 독자적인 요인이 얹히면서 전개되어 왔습니다. 교류를 통해 서로의 과제가 보다 명확해지고 있습니다.

공동선언만들기 워크숍에서는 한국과 일본의 학습자가 교류를 통해 체험과 서로의 생각을 공유했습니다. 한일 학습자들에 의해 이 선언은 탄생된 것입니다. 이 공동선언이 한일의 문해교류에 있어 새로운 시대를 열어갈 것이라고 확신하고 있습니다.

한일문해학습자에 의한 공동선언만들기 워크숍 실행위원회

Joint Declaration of Korea-Japan Literacy Learners

We, literacy learners of Korea and Japan, got together in Fukuoka, Japan from March 27 to 29, 2019. Fukuoka is the place where the Japanese literacy movement began. Through the three days, we talked about our own background, and shared motivations that made each of us to learn literacy and changes that the learning has brought to each of us. The more we talked, the deeper our interactions became. It was as if we had known each other for some time. While we were small in number, we definitely represented many of our colleagues who were not there. This declaration is outcomes of these interactions, gathering the threads of voices that each of us raised.

For various reasons, we did not learn during our childhood. When we were child, we lost our parents and had to take care of our younger siblings. We were not allowed to go to school bringing our small children. Since the time when we were child, every day and night, we worked, shopped, cooked and handled household chores. We used to be told, “No education for women.” We were very envious of other friends going to school. We survived hand to mouth. We could not write the word “graduation” on our resume. We were willing to work harder than anybody else. But, with no ability to read and write, we could do only manual labor. Yet, in the old days, jobs were available to those who did not have reading and writing ability. Nowadays, jobs are not available if you do not read and write. When we were assigned a job that required literacy, it was the time for us to leave the work. We did not have time, even a single minute, to feel pain.

Some people among us were forced a harder life because of handicap. Others hardly survived the war, and did nothing but supporting themselves. Out of poverty, some were cheated with the sugared words, “You can get much money,” and trafficked. Because of the place where they were born, they had to suffer exclusion and discrimination in their life. With no hope and no future, some attempted to end their life.

Men were also not exempted. They also lived in poverty and discrimination since they were small children. Men would find it more difficult than women to say “I cannot read and write.” Men are likely to put on a brave front in their life.

We, having such a background, began to learn how to write and read encouraged by different motivations. My child has only learned ‘standard Japanese’ and did not understand what I spoke. Gradually, I was losing communications with my child. After my task of child-rearing was over, I found that I had more time for myself. It was then when I was told by my child, grandchild and friend where I could learn how to read and write.

I did not want to be found my illiteracy by anybody. I did not ask anybody to “read” letters sent to me. As I wanted to hide this, I picked a literacy class located far away from my place taking a few hours by bicycle. I met my old friend there, and we said to each other, “Oh, you also can’t read and write.”

In the literacy class, there were many who were also illiterate. Before, I had believed that it was only me in the world who did not read and write. But I found it incorrect. In the class, all

classmates always welcomed me. People there were good and credible.

After I started to learn, my life has drastically changed. Time began to move around me. My life started again. I became friends with others who I felt safe and comfortable talking with. I feel that they care for me. I saw black stains on the paper and found them letters. My daughter-in-law, a wife of my son, put a memo pad on the refrigerator door. I asked my friend to read what was written. It read, "Thank you mother." Four years after I received the memo, I could write my reply to her. Scars in my heart slowly started to be cured. Now I can ask what it is when I see unknown letters in my literacy class. Letters used to freeze me are no more freezing. In my workplace, I keep a notebook to write down new words to remember. I used to walk with my head down and be said by others, "Are you seeking for money on the road?" Now I walk with my eyes fixed ahead. I feel like to challenge something new. Reading has helped me understand what is going on in the world. Through writing my life story, I became aware why my life in the past was like that. With healed mind, I have become much stronger than before.

My children grew up watching me. I took my children to the literacy class, and they watched me what I was doing there. They spontaneously studied without any parental advice "to study." Each of my children found their own dream and left the nest for a new world. If I had gone to school with a half-serious attitude, or had not taken the literacy class, I would have given importance only on their school results and always urged them to do this and that.

There are more people behind us who have not yet come to a literacy class. “I will join next time,” they said, but never appeared. I also said the same words before, but I was determined to come. I regrettably say to myself, “I wish I had started much earlier.” Some say, “I am not in trouble though I cannot read.” But I guess you are also suffering. Some others say, “I’m too old to learn.” If there are a paradise and hell in our afterlife and if we are not able to read the signpost, we may take a wrong direction. In reality, they do not have enough time and money to join. They struggle in their daily life.

They cannot come and learn because there are not many literacy classes. Operation of the literacy class requires money. Those who are involved in the operation are volunteer and not paid honorarium at times. Facilities accommodating classrooms have no elevators, but stairways. With no restrooms for the handicapped, people with disabilities are disappointed when they come. There are people who want to learn, but, they do not come because they do not know where they can learn. We want to be more exposed on TV or in the newspaper, so that they will know where to go and learn. Through the media, we want to convey our message, “Come and join us.” Government is responsible to ensure that free and safe literacy class is available to anybody in need.

For us, literacy means not only the learning how to read and write, but also the learning how to live. Mothers teach us how to manage our daily life, whereas the literacy teaches us how to live. Owing to the literacy, we see the world more clearly. Thus, the literacy is like a pair of glasses to us. Literacy provides us with a

place to learn letters and to express ourselves. It is a joy and purpose of our life. It is a happiness. It is a place for our spirit to stay. Literacy helps us aim higher. It opens a door to life. Through learning, we become stronger and not easily give up. For us, learning is living. We believe that mutual support and learning will help build a society where people live peacefully.

Now we can say,

“Because we were not allowed an access to learning during our childhood, we can appreciate happiness we now enjoy.”

Requests to the society and the government:

Through our exchange program, we have concluded our requests to the government and the civil society in both Korea and Japan.

- 1 . Please conduct **a national survey** to find those who still have difficulties in reading and writing. Please understand that there are people who are upset because of their illiteracy.
- 2 . Please provide all children with **a school where they safely and comfortably study**. Some of our friends who went to school in their childhood were sometimes hurt by their teachers. Many of our friends did not go to school because of poverty. There are still children who cannot go to school. Please do not make such situations.
- 3 . Please ensure **a system and measures to support literacy learning and basic education**, so that those adults who did

not receive education during their childhood for various reasons can have the access to safe learning. **Government as well as the civil society should be more responsible to achieve it by making a law and ensuring budgets.**

- 4 . It takes much more time to learn if people start learning after growing up. If they learn in the feeling of urgency, learning may become a burden on them. **It should be provided in a longer term, taking more time.** Learning takes place not only in a classroom, but in an exchange program with other classes, or outside the classroom to have more experiences.
- 5 .For the safe learning, it is necessary to have our own classroom in the vicinity of our places. For those wheel-chaired, an elevator is required for free access. Please ensure that learners are not given financial burden with tuition or transportation cost. Please build **more literacy classes and schools for adults, so that they can go and learn wherever they reside.**
- 6 .Many of those who support us listen carefully to us, make learning materials that satisfy needs of each learner, and help us know each other. While they work hard and care about us, most of them are not paid. We expect more people become our supporters who understand us. For this, we request to improve their teaching conditions including **remunerations, training or teaching materials to encourage more concerned people to be involved.**

- 7 . **Governments of Korea and Japan are requested to jointly designate a “literacy and basic education month,” during which promotional activities for more actions and networking are taken place.** Literacy programs are not sufficient, and it is important to make people understood the issue of literacy. During our program, while we met for the first time, we talked each other as if we had been old friends. All participants were energized. We wish to have more opportunities for this kind of exchange.
- 8 . Please **deliver this joint declaration to those who want to learn.** Convey this declaration in voice or picture. Please produce an animation or drama of our life history and let many people know us. Not only through this declaration, but also through other means of communications, please **make voices of literacy learners all over the world heard to many people.**

September 27, 2019

All Participants of the International Symposium
for the Enhancement of Literacy Education of Korea and Japan

<Background information>

Interactions over the issue of literacy between Japan and Korea began in 1990 when the world celebrated the International Literacy Year. It was the year when people working for literacy both in Japan and Korea first met and started to exchange research work and classroom visits. During the 1990s, literacy learners in both countries were mainly those who had spent their school-age before and after the World War II. In Korea, they underwent the colonial rule by Japan. The issue of literacy in Korea is indivisibly connected to the colonization by Japan. Through interactions, it was always the big challenge for us how we took the historical fact into our consideration. Even in our present interactions initiated in 2017, this remains as an underlying philosophy.

After the World War II, the issue of literacy in both countries has developed passing through the following problems that are partially common among the both and not common otherwise. They include Korean War, the rapid economic growth, dictatorship, myth of the 100% literacy rate, different forms of discrimination, poverty and disparity, exam competition, acceptance of foreign migrants and campaign for the enactment of literacy-related act. Through our interactions, challenges that each of us face have been made clear.

During the workshop to formulate the joint declaration, learners of both countries deepened mutual understanding and shared their experiences and thoughts. This declaration came out of thoughts of learners of Korea and Japan. We believe that this joint declaration will contribute to pave a path to a new era for the literacy interactions between Korea and Japan.

Steering Committee of the Workshop to Formulate the Joint Declaration of Literacy Learners of Korea and Japan

Translated by KOMORI Megumi of IMADR: The International Movement against All Forms of Discrimination and Racism

日韓識字学習者共同宣言の誕生

もり みのる
森 実

ここでは、^{につかんしき じ がくしゅうしゃきょうどうせんげん}日韓識字学習者共同宣言^{いた けい か}に至る経過^{せんげん}と宣言の内容^{ないよう}について、^{かんたん}簡単に^{かいせつ}解説^{うえすぎたかみち}します。上杉孝實さんによる「はじめに」^{かさ}と重なる^よところもありますが、お読みいただければ幸^{さいわ}いです。

【^{きょうどうせんげん}共同宣言^うが生まれるまで】

^{につかんしき じ がくしゅうしゃきょうどうせんげん}日韓識字学習者共同宣言は、^{に ほん かんこく}日本と韓国^{しき じ がくしゅうしゃ}の識字学習者^{こえ う}の声から生まれました。

^{に ほん}日本では、^{ねんだいごろ}1960年代頃^{ひ さ べつ ぶらく}から被差別部落^{しき じ かつどう や かん}の識字活動、夜間^{ちゅうがく}中学^{きょういくじっせん}における教育実践^{ち いき}、地域^{に ほん}における日本語教育活動^{ご きょういくかつどう}などさまざまな^{と く}取り組みや団体^{だんたい}が広が^{ひろ}っていきました。これら^{さんしゃ と く}三者の取り組みは、お互い^{たが}の存在^{そんざい}を知りながら^しも学習者同士^{がくしゅうしゃどう し}の交流^{こうりゅう}は限^{かぎ}られていました。

^{ち いき}地域によっては、三者^{さんしゃ}の持続^{じ ぞくてき}的な交流^{こうりゅう}がありました。たとえば^{おおさか}大阪では、^{ねん}1990年^{こくさいしき じ ねん}の国際識字年^{さんしゃ}をきっかけに三者^{じ ぞく}の持続^{てきこうりゅう}的交流^{はじ}が始まりました。行政^{ぎょうせい}と民間団体^{みんかんだんたい}が協力^{きょうりよく}し合^あって

「あつまろう よみかきのなかまたち よみかきこうりゅうかい」
^{まいとしかいさい}が毎年開催^{おおさか ふ ない}され、大阪府内^{ひ さ べつ ぶらく}の被差別部落^{しき じ がっきゅう}の識字学級^{や かん}、夜間^{ちゅうがく}中学^{ち いきしき じ}、地域識字^{に ほん}・日本語教室^{ご きょうしつ}などで学^{まな}ぶ人^{ひと}たち 400人^{にん}から

800人が集まって交流してきました。この集まりは、2019年で30回を数えています。

1990年の国際識字年の頃から日韓の識字交流が始まりました。日韓の研究者や実践家が相互に訪問して、現場を訪ねたり議論を行ったりしました。その頃からの交流が直接今回の交流につながっているわけではありませんが、今回の交流の土台を形作ったことができます。その後、2002年からは夜間中学生による日韓交流も始まりました。

2016年8月には、識字に関わる日本のさまざまな団体や個人が関わる形で、基礎教育保障学会が設立されました。2016年12月には、夜間中学関係者の長年の闘いの成果として、教育機会確保法が制定されました。

この頃から日韓の識字交流も新たな段階を迎えました。お互いの新しい局面を受け止めて今後を探ろうと、取り組みや問題意識を交流することに期待感が高まっていたのです。

2017年9月に大阪教育大学で行われた基礎教育保障学会第2回研究大会では、韓国から識字運動に関わる三つの全国組織の代表が大阪を訪れ、識字・日本語連絡会に関わるメンバーと交流するとともに、夜間中学を訪問しました。

2018年9月には、日本から学習者3人を含む19人が韓国を訪れました。韓国の識字教室を訪問して学習者と交流したり、学習者1,000人ほどが韓国全土から集まる「識字ひろ

ば2018」というイベントに参加したりしました。このイベントでの
かんこく しきじ がくしゅうしゃ はっぴょう えんげき にほん
韓国の識字学習者の発表や演劇などは、日本からの
さんかしや しんせん
参加者にとって新鮮でした。

2019年3月には福岡で学習者によるワークショップが開か
ねん がつ ふくおか がくしゅうしゃ ひら
れました。韓国からの学習者9人と、日本の学習者8人が
かんこく がくしゅうしゃ にん にほん がくしゅうしゃ にん
で あ かた あ きずな ふか さっし しようかい
出会い、語り合い、絆を深めました。この冊子で紹介する
につかんしきじ がくしゅうしゃきょうどうせんげん ふくおか
日韓識字学習者共同宣言は、この福岡でのワークショップ
う
から生まれました。

2019年9月27日には、ソウルでこの共同宣言を発表する
ねん がつ にち きょうどうせんげん はっぴょう
しゅうかい おこな にほん にん さんか ぜんたい
集会が行われました。日本からも25人が参加し、全体の
さんかしやすう やく にん かんこく しきじ
参加者数は約500人とのことでした。ここでも韓国の識字
がくしゅうしゃ うた おど えんげき にほん さんかしや
学習者による歌や踊り、演劇などがあり、日本からの参加者
わら なみだ なか こうえん
も笑ったり、涙を流したりしました。講演やパネルディスカッシ
ョンのあと、最後には学習者たちが共同宣言を読み上げ、
さいご がくしゅうしゃ きょうどうせんげん よ あ
しゅうかいさんかしや しょうわ かたち し
集会参加者が唱和する形で締めくくられました。

きょうどうせんげん ないよう 【共同宣言の内容】

きょうどうせんげん がくしゅうしゃ こえ つ ねん
共同宣言は、学習者の声が詰まったものです。2019年3
がつ ふくおか おこな がくしゅうしゃ
月に福岡で行われたワークショップでは、学習者たちがどん
じぶん ものがたり はな たが
どんと自分の物語を話しました。ことばは、お互いのやりとりか
しぜん ひだ たいけんだん き なか
ら自然に引き出されていくようでした。体験談を聞く中で「そう
こえ く かえ
そう」「おんなじや」という声が繰り返されました。

けっ か きょうどうせんげん ないよう ひとり
結果として、共同宣言の内容には、一人ひとりのかけがえ
のない体験が込められることになりました。参加者の多くが
たいけん こ さんかしや おお
体験していること、誰か一人が発したことは、学習者のまわり
たいけん だれ ひとり はっ がくしゅうしゃ
にいる家族たちの思いなど、あふれんばかりの物語が紡がれ
かぞく おも ものがたり つむ
ていきました。

きょうどうせんげん さいしよ すうぎょう きょうどうせんげん いた
共同宣言の最初の数行には共同宣言に至るいきさつが
か につづ ほんぶん あ か しょ ふくおか
書かれており、それに続く本文に当たる箇所は、福岡でのワー
クショップの柱立てにはば重なっています。
はしら だ かさ

さいしよ はな あ お た につかん しき
最初に話し合ったのは、それぞれの生い立ちです。日韓の識
じ がくしゅうしゃ こ ころ お た く に ち い き ちが
字学習者の子どもの頃からの生い立ちは、国や地域が違って
いっても重なっていました。共同宣言でも、数段落で学習者の
かさ きょうどうせんげん すうだんらく がくしゅうしゃ
生い立ちが綴られています。
お た つづ

ぎょう あ つぎ すうだんらく しき じ きょうしつ がくしゅう ば さん
1行空いて、次の数段落は、識字教室など学習の場に参加
か した ようになっ たら けい けい けい
加するようになったきっかけです。肩身の狭い思いをしながら
い ひと がくしゅう はじ ひつよう み
生きてきた人が学習を始めるには、きっかけが必要でした。身
ちか まわ ひと
近な周りの人たちこそが、そのきっかけでした。

つぎ すうだんらく まな なに へん か
その次の数段落では、学ぶようになって何が変化していった
の かが述べられます。たとえば「紙の上の黒いシミが文字でし
た」ということは、学習者だからこそ出てきたことです。
がくしゅうしゃ で

がくしゅう ば き ひと
そのあとに、まだ学習の場に来ていない人たちへのメッセー
ジが挟まれています。まだ来ていない人へのメッセージは、温
かい声に包まれています。
はさ き ひと あたた
こえ つつ

きょうどうせんげん がくしゅうしゃひとり しゃじ なに
共 同 宣 言 は、学 習 者 一 人 一 人 に と っ て 「 識 字 と は 何 か 」
へ と つ な が っ て い き ま す 。 たんてき い しゃじ も じ よ
端 的 に 言 え ば 、 識 字 と は 、 文 字 の 読 み
か がくしゅう い み い かた じんせい
書 き 学 習 だ け を 意 味 す る の で は あ り ま せ ん 。 生 き 方 や 人 生 の
てんぼう つう かんこく しゃじ むん へ い
展 望 な ど に 通 じ ま す 。 韓 国 で は 「 識 字 」 を 「 文 解 」 と い い ま す が 、
そ こ に は こ の よ う な 意 味 、 つ ま り 文 字 を 理 解 す る だ け で な く 文 化
り かい ぶん か かいほう い み こ
を 理 解 す る 、 文 化 を 解 放 す る と い う 意 味 が 込 め ら れ て い ま す 。

さい ご きょうどうせんげん こ よ か まな
最 後 に 共 同 宣 言 は 、 「 子 ど も の こ ろ に 読 み 書 き を 学 べ な か
っ た か ら こ そ 、 い ま の 幸 せ が あ る 」 と い う こ と ば で 締 め く ら れ
ま す 。 わ た し に は こ の こ と ば が いんしょうてき しゃじ みりよく
印 象 的 で し た 。 識 字 の 魅 力 を
しめ
示 し て い る だ け で は あ り ま せ ん 。 わ た し に は 、 こ の こ と ば が がっこう
たい なに ぶか と かん
に 対 し て 何 か を 深 く 問 い か け て い る よ う に 感 じ ら れ た の で す 。

きょうどうせんげん ようきゅうこうもく かが よう
共 同 宣 言 は 、 8 つ の 要 求 項 目 を 掲 げ ま す 。 こ の 8 つ の 要
きゅうこうもく につかんそうほう か だい
求 項 目 は 、 日 韓 双 方 に と っ て こ れ か ら の 課 題 と な る こ と で す 。

きょうどうせんげん みらい 【 共 同 宣 言 か ら 未 来 へ 】

きょうどうせんげん はつびよう
共 同 宣 言 は 、 発 表 さ れ て お し ま い で は あ り ま せ ん 。 こ れ か
じっせん うんどう みちび だ きょうどうせんげん
ら の 実 践 や 運 動 を 導 き 出 そ う と す る も の で す 。 共 同 宣 言 は 、
つぎ やくわり はた かんが
次 の よ う な 役 割 を 果 た せ る も の と 考 え て い ま す 。

げんざい しゃじ がくしゅうしゃ きょうしつ き
ひ と つ に は 、 現 在 の 識 字 学 習 者 や 、 ま だ 教 室 に 来 て い な い
こ れ か ら の 学 習 者 に 呼 び か け る メ ッ セ ー ジ と な る こ と で す 。 そ
ひと あつ おも とど
う い う 人 た ち に 熱 い 思 い を 届 け る の で す 。

ふたつには、識字活動に関わる人々に指針を示します。識字活動に限らず、実践に関わっている人たちは、ときとして迷います。そんなときに支えとなることばが共同宣言から見いだせればと思います。また、識字活動に関わっていて、何が大切なのか、ぼんやりとはわかっている、ぴったりのことばを見つけられずにいる人もいます。そのような人たちにとって、この共同宣言がよりどころとなることを期待します。

みつには、社会へのメッセージです。現在の識字活動を取り巻く状況は、残念ながら十分とはいえません。識字学習者たちに出会ったことのない人たちが識字の意義を感じと取れるきっかけになってほしいものです。ひいては、この宣言が手がかりとなって、社会のあり方を変え、新しい政策につながることを求めます。

他にもさまざまな可能性があることでしょう。でも、要求項目の最後にあるとおり、まずはこの宣言文を多くの人に知ってもらふ必要があります。わたしが知る限り、世界中を見渡しても、このような学習者による宣言はありません。そうだとすれば、日韓だけではなく、世界中に伝えるべき宣言だといえます。アジアの他の地域はもちろん、アフリカ大陸、南北アメリカ大陸やヨーロッパ、オセアニア諸地域などにも伝わり、この宣言の精神がよりゆたかに広がることを期待しています。

しゃじ
【謝辞】

この宣言^{せんげん}ができるまでには多くの人の支え^{おお}と協力^{ひと ささ}が必要^{きょうりよく ひつよう}でした。そのすべての方^{かた}の名前^{なまえ}を挙げることはできませんが、この宣言^{せんげん}の英語訳^{えいご やく}やパンフレット作成^{さくせい}に協力^{きょうりよく}いただいた方^{かた}の名前^{なまえ}は挙げておきたいと思^{おも}います。まず、反差別国際運動^{はん さ べつこくさいうんどう}（IMADR）の小森恵^{こ もりめぐみ}さんには、共同宣言^{きょうどうせんげん}の英語訳^{えいご やく}をしていただきました。小森^{こ もり}さんは、これまで人権^{じんけん}に関わる国際会議^{こくさいかいぎ}に数多く参加^{かずおお さんか}するとともに、国連文書^{こくれんぶんしょ}の翻訳^{ほんやく}にも携^{たずさ}わってきた人^{ひと}です。長橋淳美^{ながはしあつみ}さんと菅原智恵美^{すがわら ち え み}さんには、この冊子^{さっし}の編集^{へんしゅう}作業^{さぎょう}などをしていただきました。

この冊子^{さっし}は、日韓交流プロジェクト^{にっかんこうりゅう}の成果^{せい かく}の一つに過ぎま^すせん。プロジェクトのなかには、教材^{きょうざい}の翻訳^{ほんやく}や、日韓^{にっかん}の識字^{しきじ}に関するブックレット^{かん}の作成^{さくせい}も含ま^{ふく}れています。そして、そうした活動^{かつどう}を支^{ささ}えてくださったのは、トヨタ財団^{ざいだん}です。財団^{ざいだん}の助成金^{じょせいきん}を抜^ぬきに、この宣言^{せんげん}もありませんでした。

最後^{さいご}に、宣言^{せんげん}に通^{つう}じる体験^{たいけん}や思い^{おも}をあげてくださった学^{がく}習^{しゅう}者^{しゃ}の皆さん^{みな}に敬意^{けい い}と感謝^{かんしゃ}の思い^{おも}をお伝え^{つた}したいと思^{おも}います。学^{がく}習^{しゅう}者^{しゃ}の皆さん^{みな}の声^{こえ}が、まだ見^みぬ多くの学^{おお}習^{がくしゅう}者^{しゃ}、学^{がくしゅう}習^{しゅう}の場^ばにまだ来^きていない多くの仲間^{おお なかま}たちに届^{とど}くことを願^{ねが}っています。

ざいだん こくさいじよせい
●トヨタ財団 国際助成プログラム

にっかん き そ きょういくきょうどう
日韓基礎教育共同プロジェクト

<http://asia-net.jasbel.org/>

にっかんしき じ がくしゅうしゃきょうどうせんげんぶん にほん ご かんこく ご えいご
★日韓識字学習者共同宣言文（日本語・韓国語・英語）の
データが掲載されています。ダウンロードしてご活用ください。

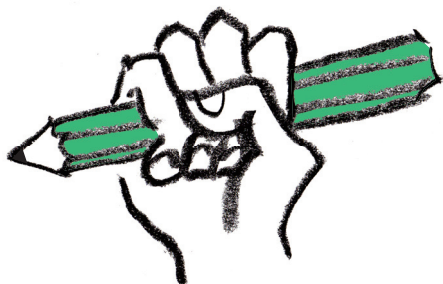
き そ きょういく ほ しょうがつかい
●基礎教育保障学会

<http://jasbel.org/>

しき じ にほん ご
●識字・日本語センター

<https://call-jsl.jp/>

にっかんしき じ がくしゅうしゃきょうどうせんげんぶん にほん ご かんこく ご えいご
★日韓識字学習者共同宣言文（日本語・韓国語・英語）の
データが掲載されています。ダウンロードしてご活用ください。



ねん がつ にち はっこう へんしゅう はっこう き そきょういく ほしやうがつかい
2019 年 9 月 30 日 発行 / 編集・発行：基礎教育保障学会

★この冊子は、公益財団法人トヨタ財団国際助成プログラム「躍動する東アジアにおける基礎教育保障のため
の共同探求ネットワークの構築」(D17-N-0185) および科学研究費「東アジア先進国における基礎教育
保障モデル構築にむけた日韓比較研究」(18K02350) により発行しています。